学校給食だより　秋田っ子給食　NO－39

公益財団法人　秋田県学校給食会

秋田魁新聞

「羽後高に地元食材給食」

県内全日制公立高で羽後町　８月下旬開始へ

羽後町は、羽後高校（84 人）の生徒に８月下旬から給食を提供する計画を進めている。「町が活力を失わないために高校はなくてはならない存在。町内産の食材で作った給食を食べ、町への愛着をさらに深めてほしい」とし、2022 年度一般会計当初予算案に事業費約１千万円を計上する考え。県教育委員会によると、県内の全日制公立高校で給食を提供するのは初。

町教委によると、昨年７月、町内の教育、経済関係者、同校ＯＢらで構成する「羽後高校の活性化を考える会」の初会合で構想が持ち上がり、検討を進めてきた。９月に同校が１、２年生計６５人の保護者に意向を尋ねた調査には、４０人が給食を希望すると回答。町教委は需要があると判断した。

１９年から稼働している町の学校給食共同調理場が調理を担当する。１日に約１２００食の提供が可能で、小中学校の児童生徒や教職員、調理場スタッフ約千人分を作った上で、さらに高校分を調理できるという。１食あたり２５０円とし、提供を受けるかは４月以降に生徒や保護者の意向を確認する。教職員にも提供する。２０年策定の第７次県高校総合整備計画は、羽後高校について「入学者数減少により２学級規模を維持できなくなりつつあることを踏まえ、地域の関係者らと学校の活性化や今後の在り方について協議する」などの方針を示している。

町教委の大久保聰教育長は「仮に地域から高校がなくなってしまえば、人口流出が加速する恐れがある。生徒たちはさまざまな場面で町民の活動に加わってくれており、卒業後も町と関わりを持ち続けてほしい」と話した。菅原敏紀校長は、給食の提供は中学生や保護者が進路を選ぶきっかけになるとの考えを示し、「町の考えには感謝しかない。町の農産物を使った新メニュー開発、販路開拓といった生徒の学習に生かすほか、地域を支える人材の育成につなげていきたい」としている。　（小林智彦）

（令和４年２月４日(金)秋田魁新聞記事より抜粋）